

横浜市インフルエンザ流行情報 18号

横浜市衛生研究所 / 横浜市健康福祉局健康安全課

《トピックス》

市全体で流行警報解除基準値を下回りましたが、依然として上回っている区もあり、引き続き注意が必要です。

【概況】

2017年第12週(2017年3月20日～26日)の定点^{※1}あたりの患者報告数は、横浜市全体で **6.76** と、第11週の 10.65^{※2} から減少し、流行警報解除基準値(10.00)を下回りましたが、依然として上回っている区もあります。

春休みが始まったため、学級閉鎖等の報告は1件のみでした。医療機関、高齢者施設内での集団発生の報告も減少していますが、引き続き、外部からの持込み防止対策や職員及び入所者等の健康観察に注意が必要です。

第6週以降、迅速診断キットの結果はB型の報告件数および割合が増加しており、第12週はA型 31.0%、**B型 68.9%**、A・B型ともに陽性 0.1%と、**B型の割合がさらに多くなっています**。市内のウイルス検出状況では、ほとんどが AH3型(A 香港型)でしたが、第10週からはB型が多く検出されています。

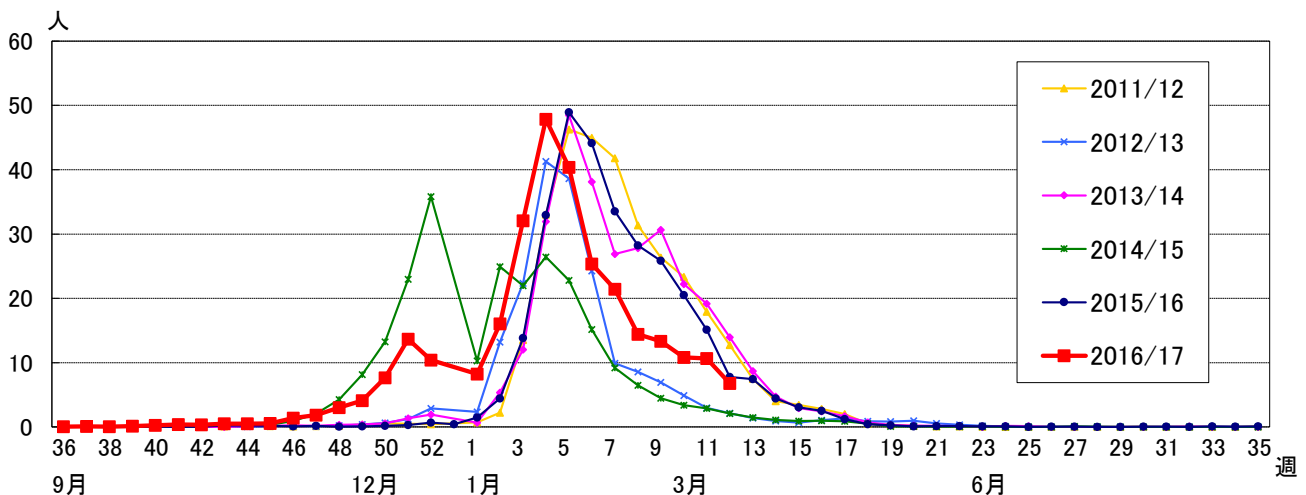
流行警報解除基準値を下回ったものの、流行はしばらく継続するものと考えられますので、引き続き、予防や早期受診などの対策^{※3}を心がけましょう。

※1 定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内153か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

※2 追加報告があったため、流行情報17号から報告数が更新されています。

※3 [市民向けインフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

1 市内流行状況:市全体の定点あたりの患者報告数は第12週で6.76となり、前週の10.65^{※2}から減少し、警報解除基準値(10.00)を下回りました。

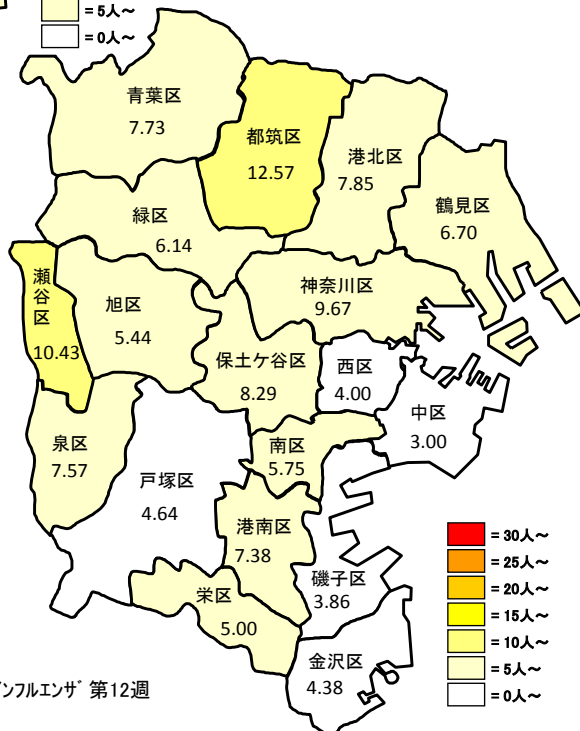
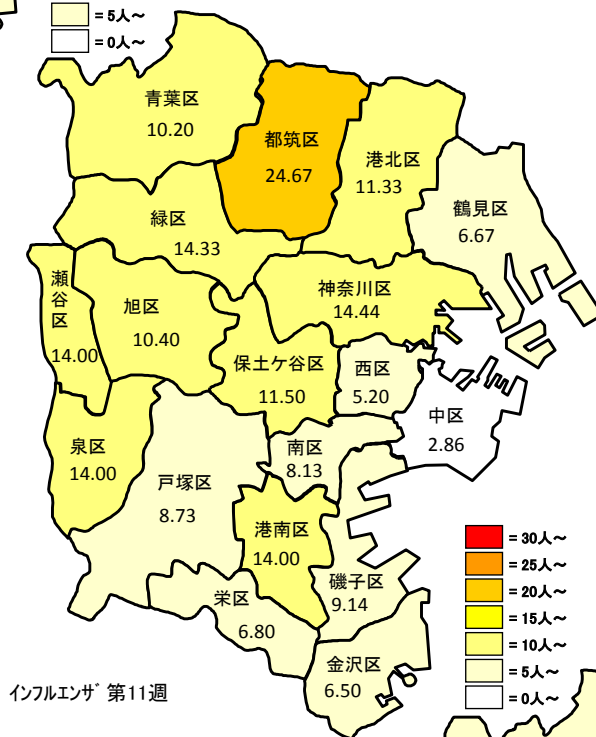
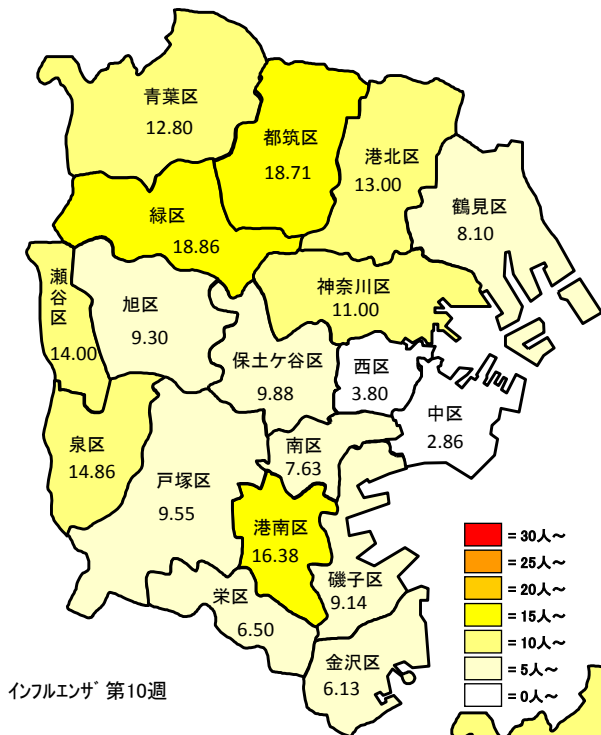


2 地図で表した直近 3 週間の区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)

2017年第3週(1月16日~22日)に市全体で警報発令基準値(30.00)を上回りました。

第3週は13区で、第4週は17区で警報発令基準値を上回りましたが、これをピークとして各区とも減少傾向となっています。

警報解除基準値を下回ったものの、流行は継続しており、ワクチンの接種の有無に関わらず、引き続き、手洗い等の予防策の徹底が重要です。



【参考リンク】

近隣自治体の流行状況

○ [神奈川県](#)

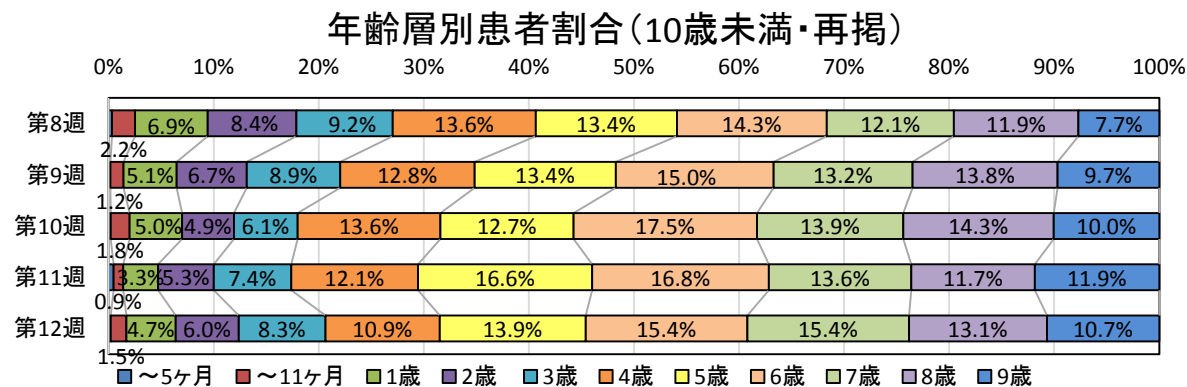
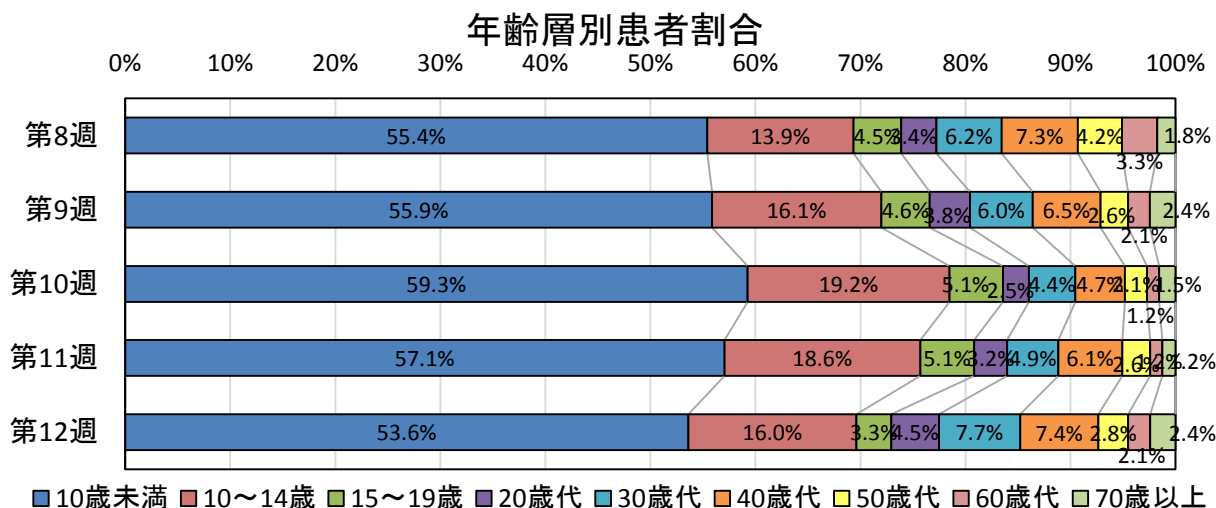
○ [川崎市](#)

○ [東京都](#)

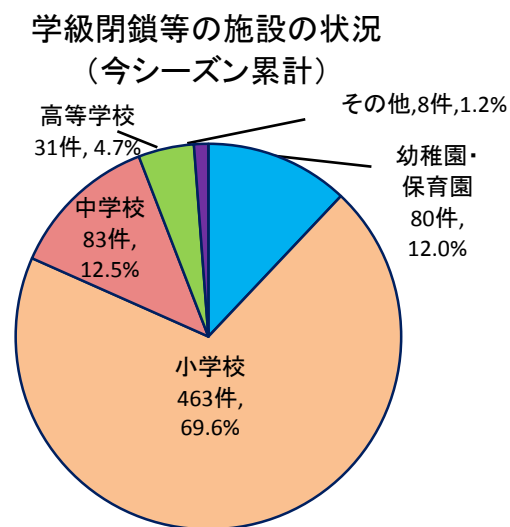
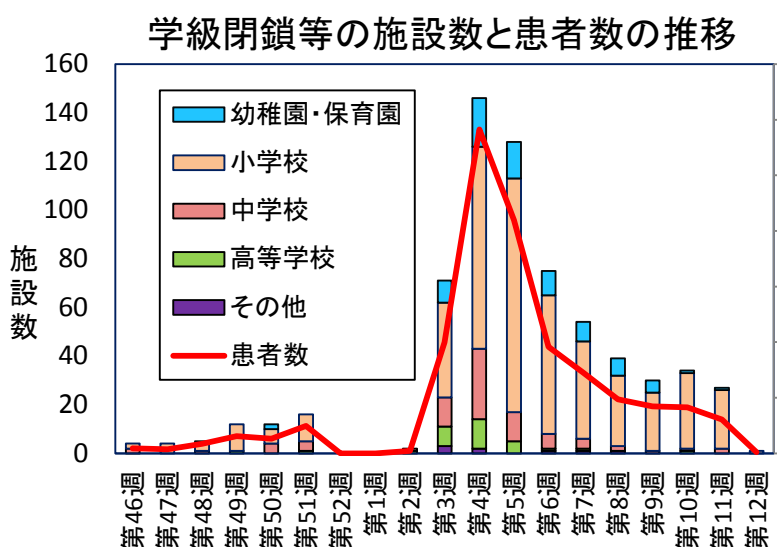
全国の流行状況

○ [国立感染症研究所](#)

3 年齢層別集計:第 12 週の患者年齢構成は、10 歳未満が全体の 53.6%、10～14 歳が 16.0% となっており、15 歳未満の割合が、第 10 週をピークとして減少傾向にあります。



4 市内学級閉鎖等状況:第 10 週、第 11 週で横ばい状態となっていました、第 12 週は春休みが始まったこともあり、小学校 1 件のみの報告となっています。第 12 週で報告された患者数(医療機関で診断された人数とインフルエンザ様の症状のある人数の合計)は 10 人で、第 11 週の 303 人から大きく減少しています。

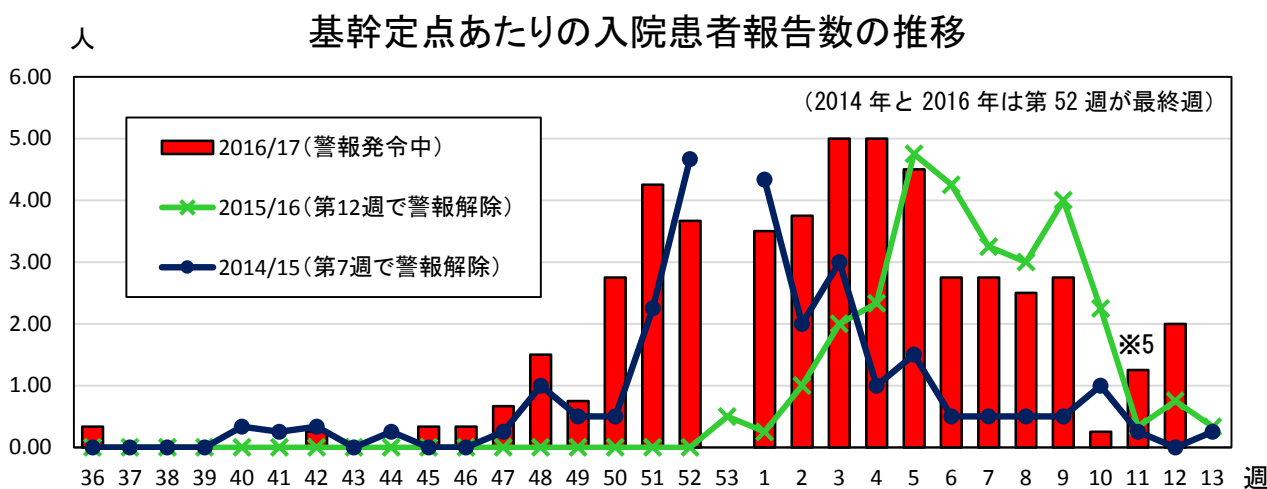


5 入院サーベイランス:第 12 週の市内基幹定点医療機関^{※4}あたりのインフルエンザ入院患者報告数は 2.00 で、迅速診断キットの結果は A 型と B 型が半数ずつでした。今シーズンは累計で 196 人となっています。

これまで迅速診断キットの結果が把握されている事例は、第 8 週まではすべて A 型でしたが、第 9 週で今シーズン初めて B 型の事例が報告されてから、B 型の報告が多くなっています。

入院時の診療内容が把握されている事例で、ICU 入室、人工呼吸器の使用、頭部 CT 検査、脳波検査が実施された重症肺炎や脳炎が疑われる入院患者(以下、重症入院患者)は、特に小児と高齢者で多くの報告があります。第 12 週に報告された重症入院患者は、B 型の小児 2 件でした。

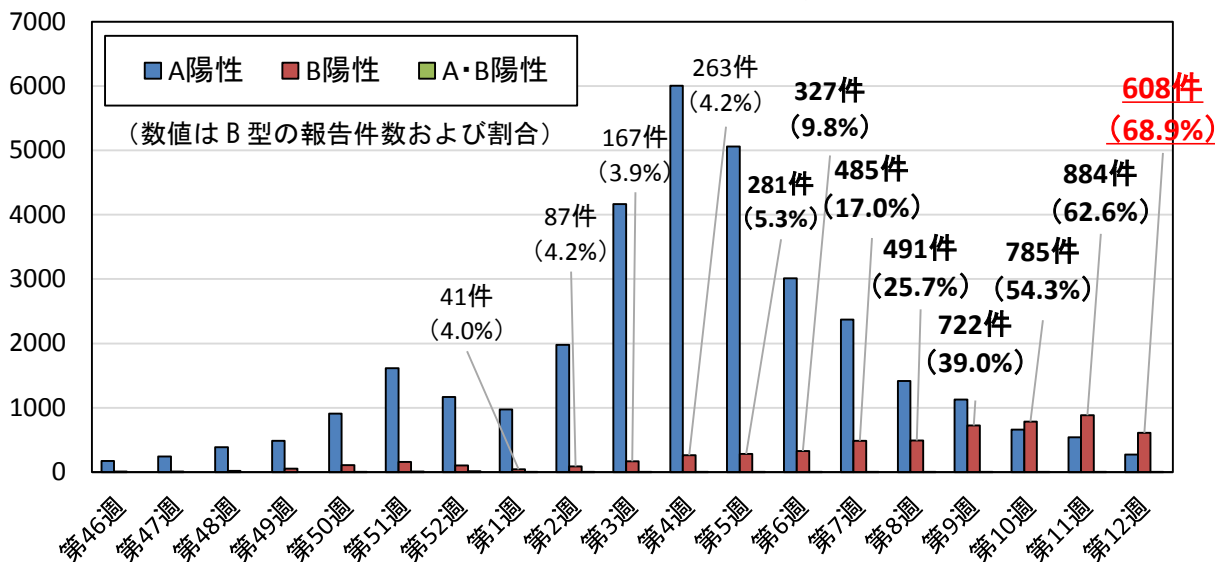
※4 基幹定点:患者を 300 人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には 4 つの基幹定点があります。



※5 追加報告があったため、流行情報 17 号から報告数が更新されています。

6 迅速診断キット結果:第 6 週以降、B 型の報告数および割合が増加しており、第 12 週の迅速診断キットの結果は A 型 273 件(31.0%)、B 型 608 件(68.9%)、A・B 型ともに陽性 1 件(0.1%)でした。第 10 週から B 型の占める割合と報告数が多くなっていました。第 12 週では報告数は減少していますが、B 型の占める割合は増加しています。

横浜市の患者定点医療機関における
迅速診断キットによる型別の報告数

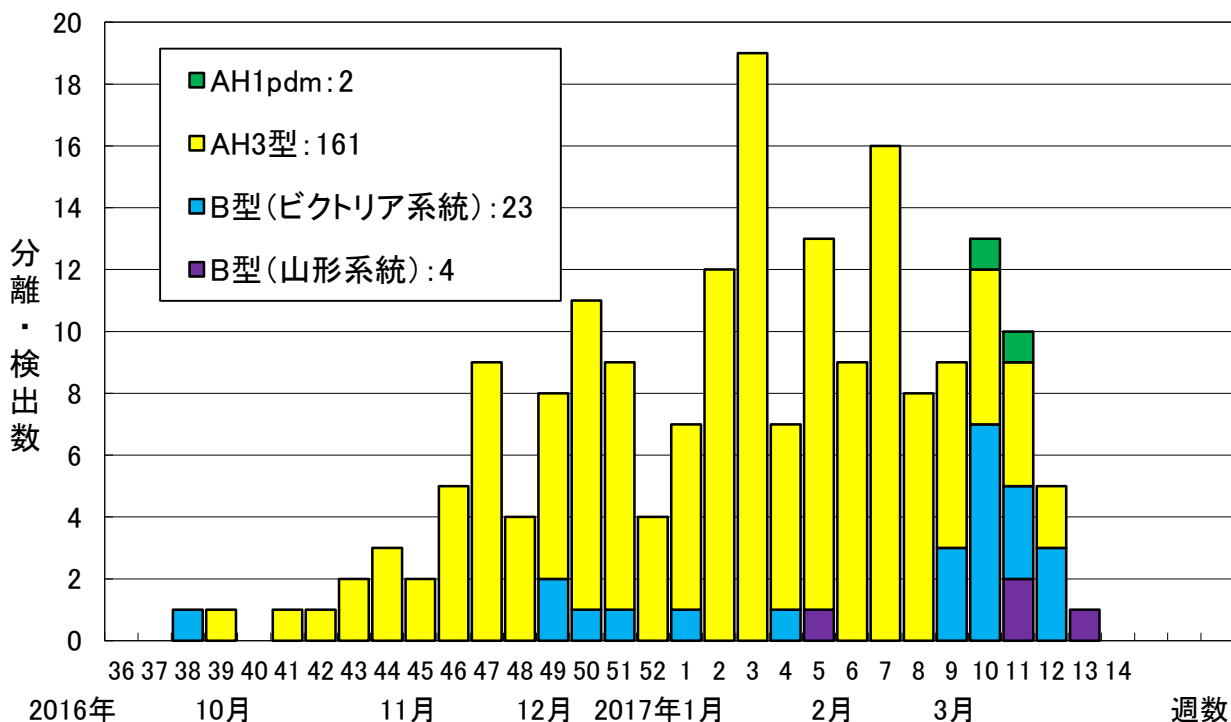


7 市内病原体検出状況:第 8 週までは市内では、病原体定点医療機関^{※6}から AH3 型が最も多く分離・検出され、全国の状況^{※7}と同様でした。一方、市内では第 9 週以降、B 型(ビクトリア系統)の検出が増加し、第 10 週と第 11 週に AH1pdm、第 11 週と第 13 週に B 型(山形系統)が検出されています。

※6 病原体定点:採取した検体を衛生研究所に送付する医療機関で、市内に 17 か所あります。うち、インフルエンザについては 12 か所にて採取されています。

※7 [インフルエンザウイルス分離・検出速報\(国立感染症研究所\)](#)

病原体定点からのインフルエンザ分離・検出状況(2017 年 3 月 30 日現在)



インフルエンザウイルス(AH3 型)の電子顕微鏡写真(3 万倍)

撮影:
横浜市衛生研究所
微生物検査研究課
(2017 年 3 月)

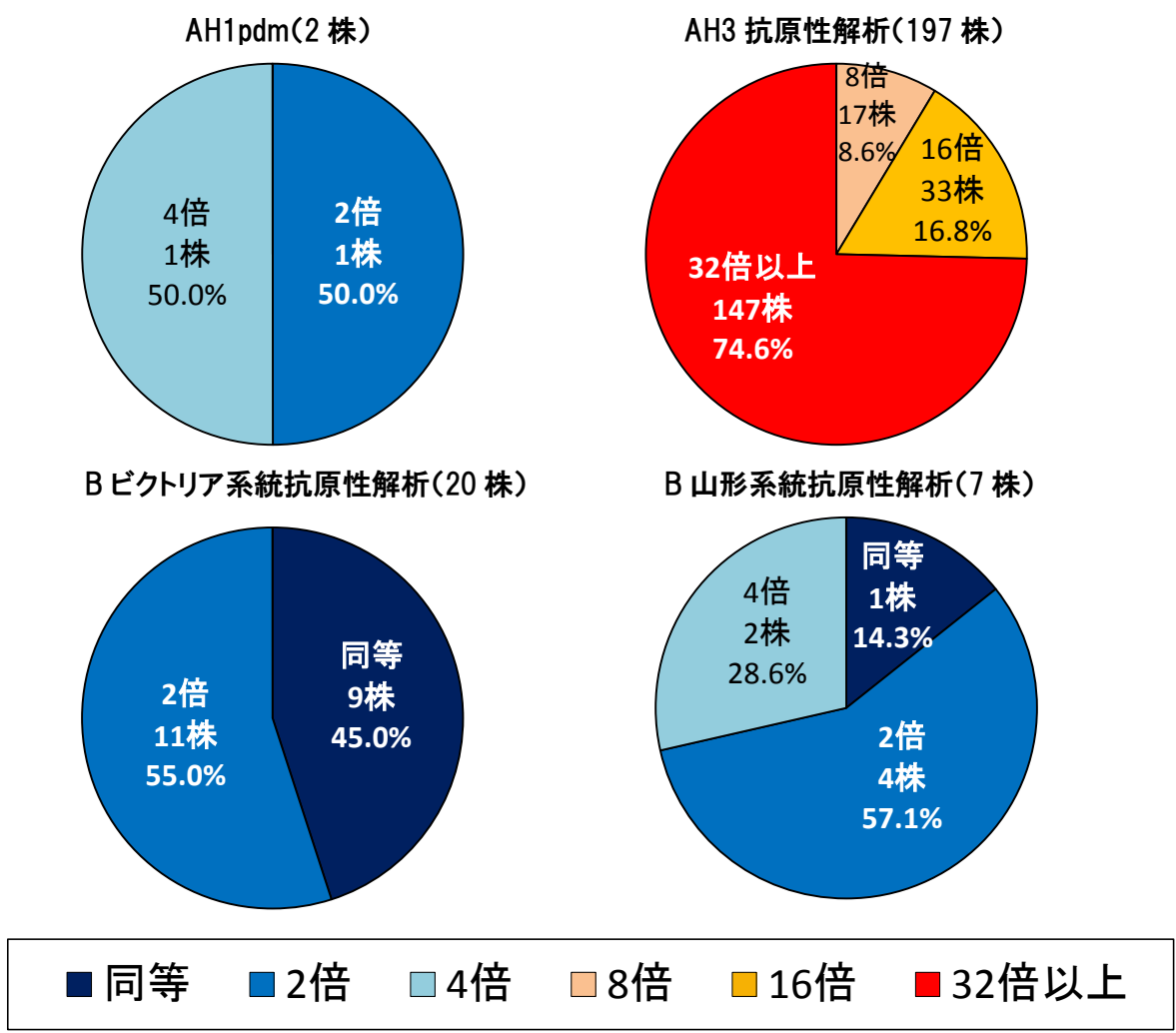
【参考】ワクチン株との抗原性解析

市内で分離された AH3 株(細胞培養した 197 株)のワクチン株との抗原性解析(HI 試験)は、ウサギの血清を使っているため参考値ですが、すべて 8 倍以上でした。ワクチン類似とされているのは 4 倍以内であり、現在までに市内で分離された AH3 株については、ワクチン株と類似しているとは言えず、国立感染症研究所の結果と矛盾しない結果^{※8※9}と考えられます。一方、市内で分離された AH1pdm(細胞培養した 2 株)、B 型株(細胞培養した 27 株)については、すべて 4 倍以内でした。

※8 [インフルエンザウイルス流行株抗原性解析と遺伝子系統樹 2017 年 2 月 24 日\(国立感染症研究所\)](#)

※9 [A\(H3N2\)亜型野外流行株の抗原性解析結果\(国立感染症研究所\)](#)

(参考値)市内で分離された株の抗原性解析(2017 年 3 月 28 日現在)



今シーズンのインフルエンザ流行情報は今号が最後です。(再び報告数が大幅に増加した場合は発行します。)今後の流行状況は[横浜市感染症情報センターホームページ](#)に掲載している「最新の感染症発生状況(横浜市内)」の「週報」の「定点情報」をご参照ください。